立命館大学産業社会学部リユニオン会報

校友さんしや

2002年9月30日　No.29
ホームページ●http://www.ritsumei.ac.jp/kic/so/index-j.html
題字●元総長・細野武男氏

教育・研究のより高い創造をめざして

産業社会学部長・社会学研究科長　木田（きだ）融男（あきお）

今年度から産業社会学部長・社会学研究科長になりました、どうかよろしくお願いいたします。私は一九八四年に立命館大学に赴任いたしまして、当初は現代社会論、後には産業社会学を主として担当してきました。学部はこの間、昨年度は人間福祉学科および応用人間科学研究科の新設、既存産業社会学科の改革、その前には総合社会特修コースの新設、既存大学院社会学研究科の定員増、そして改修なった以学館への学部棟移転など、それこそ飛躍的ともいえる展開をとげてまいりました。社会状況は大学にたいしても例外ではなく厳しい風を吹きこんでおりますが、私どもの学部・大学院がこのように目覚ましい発達を獲得できた要因といたしまして、今までの学部・大学院を構成していただいた皆さまが、教育や研究において、また社会のいろいろな分野において多様な活躍をされたことが各界の認知となり、この学部・大学院をより大きくしてやろうという流れになったことがあると考えられ、皆さまには誠に感謝をいたす次第でございます。私の役割は、規模や制度・施設で発展した学部・大学院を、今度は教育や研究の内実でより高い中身を創りだし発信していくため、その条件を整えることではないかと心しております。校友の皆さまのお力添えをさらにいっそう強く賜りますようお願い申しあげます。

21世紀の「福祉社会」を 建設し担う人材を育てたい

2002年度 産業社会学部社会福祉教育委員長 **加藤 直樹**

昨二〇〇一年度から、産業社会学部は新しい学科、人間福祉学科を発足させ、初めて二学科となりました。新学科の設置については、以前の校友さんしゃ（№28）において簡単に紹介しましたが、おかげさまで、一学年二〇〇名で現在四〇〇名の学生たちが元気で学んでいます。新しいカリキュラムのもとで二回生後半から開始される専門ゼミが、この秋から開講されることになっています。

■1. 新学科の理念と特徴

人間福祉学科の設置は、産業社会学部において決して唐突になされたわけではありません。学部開設当初から設定されていた「社会問題」部門が基盤としてあり、一九八七年度および一九九四年度の改革において設置・改変された「発達・福祉コース」を抜本的に拡充したものとなっています。

人間福祉学科はこのように学部の歴史をふまえたものですが、同時に、他大学に先行的に設置されている伝統的な社会福祉学部・学科とは異なるねらいをもつものでもあります。人間福祉学科設置に向けての学部としての討論において強調されたのは、二一世紀の社会を「福祉社会」として位置づけ、そのリーダーとしての担い手を育てたいということでした。

つまり、二一世紀は人間と人間、人間と自然が共生する「共生社会」であるといわれ、経済発展とともに福祉や環境を保全しつつ発展する「持続発展的社会」であるといわれますが、それは「福祉社会」と表現することもできるでしょう。現在すでに社会福祉領域はせまい意味の社会福祉施設・関係機関だけでなく福祉関係に業務を展開する企業や、NPO・NGO、ボランティア組織など多様なところが担っており、今後さらに社会を構成するさまざまな組織・団体等が福祉を抜きにしては考えられない時代が到来すると考えられます。人間福祉学科は、そのような時代を建設し、担い、あらゆる分野で活躍する人材を育てるという目標をもつものと考えているわけです。

ですから、人間福祉学科の教学目的は、「「人間がより人間らしく生きることのできる福祉社会」とはどのような社会かについて探究し、すべての人たちの自己実現を可能ならしめる人間的社会的諸条件を明らかにして、それらの諸条件を創造していくための専門的学力と技術を養う」こととしています。つまり、「二一世紀福祉社会を実践的に担い運営するために、社会科学的分析能力と福祉マインドをもち、人間の心の理解力をもって福祉分野のみならず多様な社会分野で活躍できる人材を養成することを目標とし」、そのような人材として社会で活躍できるために、「希望者全員が社会福祉教育実習を含めた社会福祉士国家試験受験資格を取得できる学科」であるわけです。

以上のような理念に基づいて、人間福祉学科は次の三つのプログラムをもって学生の育成にあたることを志向しています。

すなわち、福祉環境プログラム、福祉マネジメントプログラム、発達臨床プログラムであり、それぞれ次のような特徴をもちます。

(1)人間福祉学系：福祉環境プログラム

福祉のあり方が具体的に検証される場所・関係・制度を福祉環境と設定し、人間がよりよく生き、暮らすことのできる人間らしい福祉（Well-being）の環境とは何かについて探究します。具体的には、人間の暮らしの社会的仕組み、家族や地域（コミュニティー）での人間と人間の関係、住居や街区、地区へと広がる社会的空間的環境と人間の関係などを対象として、そこで生起している人間らしいあり方にとって障害となっている様々な事象やそれらの障害と格闘しながら、つむぎだされている暮らしの仕組みについて、社会調査的手法や社会診断的手法を駆使してアプローチします。

(2)人間福祉学系：福祉マネジメントプログラム

福祉社会のあり方を福祉制度や社会政策などの視点から探究し、そこに暮らす人たちの「自己実現を可能ならしめる」福祉制度や社会的・人間的システムとは何かについて研究し、福祉社会を計画し、福祉環境を具体的にマネジメントするための具体的方策を探究します。具体的には福祉制度や社会システムのありようについて、マネジメントや情報ネットワークの手法も駆使してアプローチします。

(3)人間福祉学系：発達臨床プログラム

子ども、障害者、高齢者のひとたちを含むすべての人たちの「自己実現を目指した生き方」が可能となるための人間主体のあり方や人間関係のあり方を「こころと身体」のレベルから研究するプログラムです。福祉現場で働き、福祉に携わる臨床場面では、人間の心のケアや主体的な価値形成などが不可欠です。主体的で自己変革的な人間発達のあり方について、発達の主体者の観点からのみならず、その発達を援助する人たちの人間理解を高め、自ら発達していく観点からも探究していきます。具体的な人間発達や人間関係のありようについて、発達診断的手法や人間関係診断的手法を駆使してアプローチします。また福祉の現場や臨床場面での具体的な対人援助のあり方などについても探究します。

また、このような改革とあわせ、大学院教学についても、全学の改革構想の一環として新学科と同じ二〇〇一年度に「応用人間科学研究科」が発足しました。これは、文学部と産業社会学部を基礎にした新しい大学院で、産社学生にとっては社会学研究科と共に、新しい進路ともなるものです。たとえば、上記発達臨床プログラムを履修した学生にとってさらに学ぶために貴重な進路となることが考えられます。

■2. 現状といくつかの課題

冒頭にも書いたように、新学科開設から一年半経過し、現在まで大過なく進行していますが、しかし、実際はこれからが勝負です。いろいろな課題がありますが、その一つが実習の体制の問題です。

実践の科学でもあるこの分野で欠かせないのがフィールドワークですが、たとえば、社会福祉士、精神保健福祉士の資格取得のために、一学年約二〇〇名に及ぶ学生諸君の実習を実施するための体制が必要になります。これまでも産業社会学部は社会福祉士課程を設け、社会福祉実習を実施してきましたが、来年度からいよいよこれまでの倍以上の学生の実習を支援する必要があります。そのために、新学科ではすでに実習指導室を設け、五名の指導主事を擁するなどして対応していますが、それにしてもこれだけ大量の実習先を確保することは容易ではありません。特に立命館大学は、この分野においては後発であるために困難が多いといえます。何とか来年度の見通しをもつことができつつありますが、この間感じているのは、産社をはじめとする諸先輩が社会福祉分野で活躍しておられ、それらの方々が後輩たちのために手を貸そうとしてくださっておられることであり、伝統に感謝している次第です。しかし、資格取得に関わる実習先を安定的に確保するとともに、それ以外のフィールドワークを今後充実していくためには、学部・学科としてのさらなる努力が必要であるとともに、校友の方々のご協力も仰がなければならないと感じています。

もう一つ大きな課題があります。それはより根幹の課題であるのですが、新学科のコンセプトが現実の社会のもとで必ずしも理解されず、従来の社会福祉学部・学科と同じように受け取られているとみられる問題です。

新学科設置のコンセプトは先に述べたように、従来の社会福祉の枠を大きく超えた視野をもっており、従って学生たちの「出口」、すなわち就職先などについても、社会福祉関連領域の受け皿をはるかに超えた定員をもっていますが、入学した学生諸君の意識は必ずしもそうではありません。従って、これから進路を具体化する段階で進路変更を要することが考えられ、その面での支援が求められると思われます。

産業社会学部としては、先述のように今後の福祉社会においてはあらゆる分野で福祉マインドが必要とされ、たとえば「福祉マインドをもったスチュワーデス」も必要になるという見通しを立てているのですが、国民の全体がそのような見方をするには至っておらず、現実は福祉社会どころか、生存競争がむしろ厳しくなって、社会福祉分野においても競争の時代といわれてきています。そのような中で、改めて新学科の構想をどう練り、国民によくわかり、学生諸君の学びをどう積極的に支援するかという方策を検討していこうと考えています。しかし同時に、中長期的に見るならば、光り輝くであろう先駆性をもった学科のコンセプトを広くアピールしていくことも大切であると考えており、校友の皆さまにもそのような学部の考えを理解していただき、支援していただければと思っています。

人間福祉学科が 発足しました

▼校友の無限の広がりを生かしたい

充実した大学生活が終わり、早いもので半年近くが経とうとしています。慣れ親しんだ大学の卒業式は少し寂しい気もしましたが、それ以上に校友として熱く迎え入れていただいたことを非常に嬉しく思っています。この校友の無限の広がりを十分に生かし、これからの人生を歩んでいきたいと思います。また校友の一員として皆様の力になれるように努力していきたいと思います。

2002年3月卒業
長谷川善一

▼校友会は心強い存在

私は現在商社で輸入の手配をしながら、大学で習った中国語を仕事に活かすために勉強する日々を送っています。仕事に追われる中で中国語の勉強を諦めそうになるときもありますが、一緒に留学し勉強した仲間や、その頃の一生懸命だった自分を思い出すと、頑張ることができます。そんな私にとって、立命館大学と校友会はとても心強い存在です！

2002年3月卒業
田中亜梨紗

立命館大学産業社会学部リユニオン会報
編集人●谷垣利治
発行人●都鳥正喜
発行所●産業社会学部リユニオン
〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1
☎(075)465-1111㈹ 振替 京都3-19595

校友さんしゃ

2002年9月30日 第29号
ホームページ●http://www.ritsumei.ac.jp/kic/so/index-j.html

全学校友会との連携とリユニオン

リユニオン会長 都鳥正喜

産業社会学部リユニオン（校友会）は、一九九九年以来活動が休止しておりましたが、三年ぶりに体制を建て直し、活動を再開することといたしました。

学部校友会としていくつかの問題があり、このような結果を生じ、学部校友の皆様にご迷惑をおかけし誠に申し訳ありませんでした。

基本的問題は、役員会の問題と立命館大学の教学改革や産社における人間福祉学科の創設など、大きな異動や変化が続いてきたことにあります。

ようやく学部も落ち着きを見ることとなり、今年七月に役員会を開催し、活動を再開することといたしました。

当面、機関紙「さんしゃ」を発行することといたしましたが、今年のリユニオンデーにつきましては、十一月二三日が大学入試日と重なるため、日程を変更させていただきたいと存じます。

そこで、十一月二日㈯に全国校友大会が開催されるので、そこに合流するということにいたしました。

初めての試みではありますが、全学校友会との関係も含め、今後のあり方を検討する上でも意味のあることだと考えております。

今後、役員体制や事業と予算の関係、全国の校友との連携も含め見直しを進めながら学部校友会のあり方を明らかにしていきたいと存じます。皆様方のご協力をお願いいたします。

◆1999年10月から2002年9月までの間に退職された先生◆（敬称略）

【1999年度】
鈴木 良（社会史） 内木場努（英語）
【2000年度】
木津川計（大衆芸能論）
森田浩平（社会心理学）
吉田昌子（英語） 梶理己也（ドイツ語）
Jaqueline BERNDT（芸術社会論）
【2001年度】
飯田哲也（家族社会学）
稲葉哲郎（メディア認知論）

◆1999年10月から2002年9月までの間に着任された先生◆（敬称略）

【2000年度】
野田正人（児童福祉論）
Ian HOSACK（英語）
黄 盛彬（コミュニケーション政策論）
【2001年度】
生田正幸（福祉情報論）
小川栄二（高齢者福祉）
津止正敏（地域福祉論）
景井 充（自我論）
峰島 厚（障害者福祉論）
出口剛司（文化社会学）
山本 隆（福祉行財政論）
仲井邦佳（スペイン語）
秋葉 武（非営利組織論）
前田信彦（国際福祉）
大山博史（精神保健）
増田幸子（異文化間コミュニケーション）
岡田まり（社会福祉）
森田真樹（教育社会学）
【2002年度】
津田正夫（パブリックアクセス論）
松原洋子（自然科学概論）
（2003年度より大学院先端総合学術研究科着任予定）

◆1999年10月から2002年9月までの間に亡くなられた先生◆

大野桂一郎先生 細迫朝夫先生

リユニオンデーの開催について

例年、11月23日に開催してきましたリユオンデーは、全国校友大会にあわせ11月2日㈯に開催いたします。多くの校友の皆さんの参加をお待ちしています。なお産業社会学部リユニオン（校友会）は、全国校友大会に参加されるみなさまに参加費補助をいたしますので、全国校友大会へも是非ともご参加ください。

◆リユニオンデー◆

日時：2002年11月2日㈯ 15：00〜16：00
場所：ホテルグランヴィア京都
竹取の間（5F）
内容：①産業社会学部近況報告
②産業社会学部校友会総会

◆全国校友大会◆

日時：2002年11月2日㈯ 17：30より
場所：ホテルグランヴィア京都 源氏の間（3F）
参加費補助について：
さんしゃリユニオンデーに引き続き全国校友大会に参加される場合、または、ゼミ同窓会として全国校友大会に参加される場合は、産業社会学部校友会より参加費補助（2,000円）を行いますので、事前に事務局までご連絡ください。

●全国校友大会の懇親会会場では「産業社会学部コーナー」を設けますので、お気軽にお立ち寄り下さい。